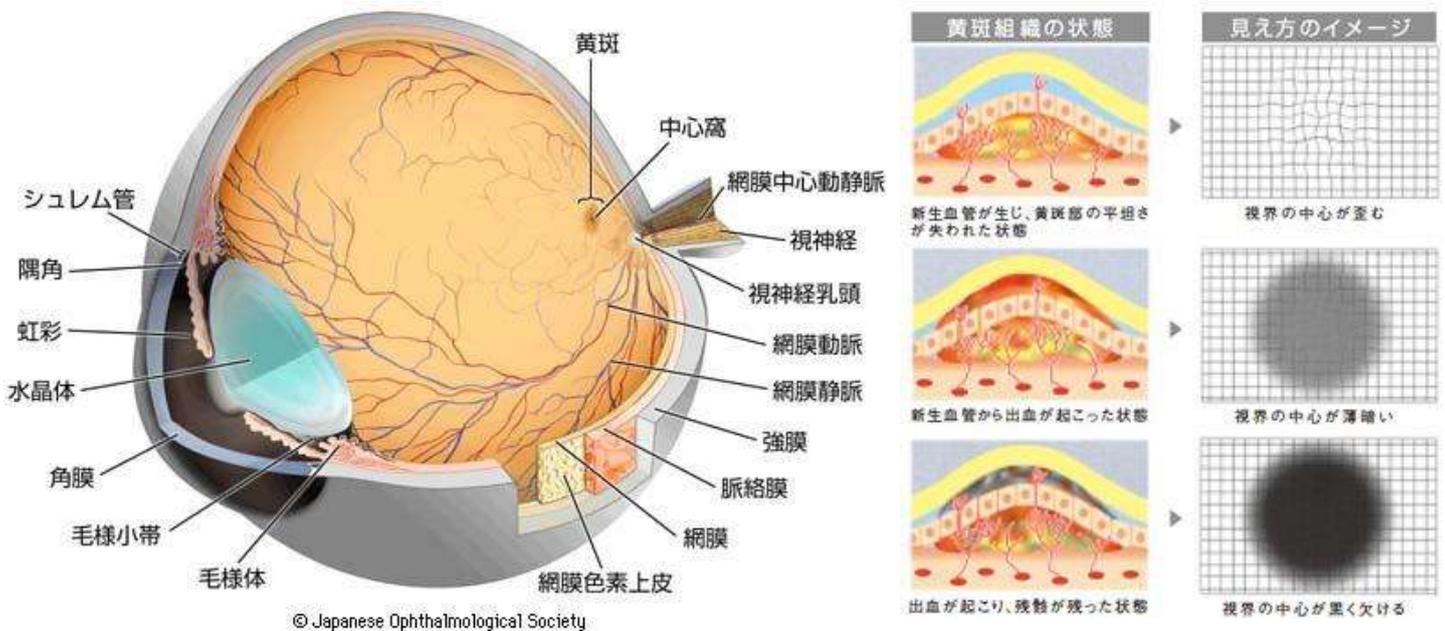


週刊 **タバコの正体**

タバコを吸い続けると、いろんな病気になる可能性が高くなります。肺ガン、胃ガン、心筋梗塞、脳梗塞、COPD・・・どの病気も1年や2年では発症しませんが、40年も50年も吸い続けるとほとんどの喫煙者は身体のどこかにダメージが現れ始め、先のような病気となる人が多いのです。

タバコによる病気は内臓に集中していますが、意外にも「眼」の病気も存在します。「黄斑変性症」(おうはんへんせいしょう)という、ものの見え方がおかしくなる病気です。



私たちは、眼の網膜に届いた光をもとに脳で画像に変換されたものを「見ている」のです。その網膜の中心にある1.5～2mm程度の部分が黄斑と呼ばれています。つまり、見ているところの光が集まってくる部分なので黄斑に異常があると、上図右のように、視野の中心がゆがんで見えたり、黒く欠けたりするのです。これが「黄斑変性症」という病気です。

この病気の原因は、黄斑にある毛細血管が詰まって血液が流れなくなる事がきっかけとなるそうです。タバコを吸うと“血管が詰まる”確率を高めることは、今までも紹介してきましたから納得してもらえらると思います。

タバコと引き換えに視野を失うなんて、知ってしまったら怖くてタバコには手を出せませんよね。

産業デザイン科 奥田 恭久